

強者の戦略

上手く問題文の意味がつかめたでしょうか？
チェビシエフの不等式と呼ばれる不等式の証明です。

第1問

n を 2 以上の自然数とする。

$x_1, \dots, x_n, y_1, \dots, y_n$ は $x_1 > x_2 > \dots > x_n$,
 $y_1 > y_2 > \dots > y_n$ を満たす実数とする。 z_1, \dots, z_n
は y_1, \dots, y_n を任意に並べ替えたものとするとき、

$$\sum_{i=1}^n (x_i - y_i)^2 \leq \sum_{i=1}^n (x_i - z_i)^2$$

が成り立つことを示せ。また、等号が成り立つのはどのようなときか答えよ。

【2010 年度東北大理系後期】

《考え方》

$\{z_i\}$ は $\{y_i\}$ を並び替えたものなので、加える順番を変えてもその和は変わりません。よって

$$\sum_{i=1}^n y_i^2 = \sum_{i=1}^n z_i^2$$

となりますから、結局示すべき不等式は

$$\sum_{i=1}^n x_i y_i \geq \sum_{i=1}^n x_i z_i$$

です。

$n=2$, 3 ぐらいで具体的に実験してみましょう。

$$x_1=3, x_2=2, x_3=1$$

$$y_1=100, y_2=10, y_3=1$$

として、 y_i を適当に並び替えたものを考えると

$$3 \cdot 10 + 2 \cdot 100 \leq 3 \cdot 100 + 2 \cdot 10 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$3 \cdot 10 + 2 \cdot 1 + 1 \cdot 100 \leq 3 \cdot 100 + 2 \cdot 10 + 1 \cdot 1 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

となり、確かに y_i が大きい順に並んだものの方が、その他の並びのものよりも総和が大きくなっています。

$n=2$ のときは y_1 と y_2 のみが入れ替えられているので分かり易いですが、 n が増えると並び替え方がすごい勢いで増え、手に負えません。よって、

「1 組ずつ並び替える」

という方針でいくことにしましょう。

《解答》

z_1, \dots, z_n は y_1, \dots, y_n を任意に並べ替えたものであるから、

$$\sum_{i=1}^n y_i^2 = \sum_{i=1}^n z_i^2$$

が成り立つ。

示すべきことは

$$\sum_{i=1}^n (x_i - y_i)^2 \leq \sum_{i=1}^n (x_i - z_i)^2$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2 \sum_{i=1}^n x_i y_i + \sum_{i=1}^n y_i^2 \leq \sum_{i=1}^n x_i^2 - 2 \sum_{i=1}^n x_i z_i + \sum_{i=1}^n z_i^2$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n x_i y_i \geq \sum_{i=1}^n x_i z_i \quad \dots\dots (*)$$

である。

$n \geq 2$ のとき (*) が成立することを数学的帰納法を用いて示す。

(i) $n=2$ のとき

$(z_1, z_2) = (y_1, y_2)$ ならば、明らかに (*) の等号が成り立つ。

$(z_1, z_2) = (y_2, y_1)$ ならば、

$$(x_1 y_1 + x_2 y_2) - (x_1 y_2 + x_2 y_1)$$

$$= (x_1 - x_2)(y_1 - y_2) > 0$$

$$\therefore x_1 y_1 + x_2 y_2 > x_1 y_2 + x_2 y_1$$

より (*) が成り立つ。

(ii) $n=k$ ($k \geq 2$) のとき

$x_1 > x_2 > \dots > x_k, y_1 > y_2 > \dots > y_k$ を満たす任意の実数と、 y_1, \dots, y_n を任意に並べ替えた z_1, \dots, z_n について

$$\sum_{i=1}^k x_i y_i \geq \sum_{i=1}^k x_i z_i$$

$$\Leftrightarrow x_1 y_1 + \dots + x_k y_k \geq x_1 z_1 + \dots + x_k z_k$$

が成り立つと仮定する。

$n=k+1$ のときを示す。

$$x_1 > x_2 > \dots > x_k > x_{k+1}, y_1 > y_2 > \dots > y_k > y_{k+1}$$

とし、 y_1, \dots, y_{k+1} を並べ替えて z_1, \dots, z_{k+1} になるとする。

強者の戦略

ここで、

$$z_{k+1} = y_j (1 \leq j \leq k+1), z_i = y_{k+1} (1 \leq i \leq k+1)$$

とし

$$s = x_1 z_1 + \cdots + x_i y_{k+1} + \cdots + x_k z_k + x_{k+1} y_j$$

$$s' = x_1 z_1 + \cdots + x_i y_j + \cdots + x_k z_k + x_{k+1} y_{k+1}$$

とおくと、

$$\begin{aligned} s' - s &= (x_i y_{k+1} + x_{k+1} y_j) - (x_i y_j + x_{k+1} y_{k+1}) \\ &= (x_i - x_{k+1})(y_j - y_{k+1}) \geq 0 \end{aligned}$$

$$\Leftrightarrow s' \geq s$$

となる。等号は $i = j = k + 1$ のとき成立する。

よって、

$$\begin{aligned} x_1 z_1 + \cdots + x_k z_k + x_{k+1} z_{k+1} \\ \leq x_1 z_1 + \cdots + x_k z_k + x_{k+1} y_{k+1} \\ \leq x_1 y_1 + \cdots + x_k y_k + x_{k+1} y_{k+1} \quad (\because \text{帰納法の仮定}) \end{aligned}$$

が成り立つ。等号は $z_i = y_i (i = 1, 2, \dots, k+1)$ のとき成立する。

以上より、(*)は2以上のすべての自然数 n について成立するから、題意は示された。

等号が成立するのは $z_i = y_i (i = 1, 2, \dots, n)$ のときである。

■

《解説》

ラストの項の x_{k+1} のペアとして、 z_{k+1} と $z_i = y_{k+1}$ を比べたとき、後者の方が大きくなる ($s' \geq s$) ことを利用して証明しています。 y_{k+1} が絡む1組のみ入れ替えて、論点を明確にしました。文字が多すぎてじっくりこない方は、具体例で考えてみてください。②の例でいえば、

$$2 \cdot 1 + 1 \cdot 100 \leq 2 \cdot 100 + 1 \cdot 1$$

ですから、 $z_3 = 100$ と $z_2 = 1 (= y_3)$ を入れ替えて

$$3 \cdot 10 + 2 \cdot 1 + 1 \cdot 100 \leq 3 \cdot 10 + 2 \cdot 100 + 1 \cdot 1$$

が成り立ちます。

さらに項を一個減らし帰納法の仮定を用いて

$$\begin{aligned} 3 \cdot 10 + 2 \cdot 1 + 1 \cdot 100 &\leq 3 \cdot 10 + 2 \cdot 100 + 1 \cdot 1 \\ &\leq 3 \cdot 100 + 2 \cdot 10 + 1 \cdot 1 \end{aligned}$$

とできますね。

さらなる強者向けに、背理法を利用した証明も紹介します。この場合も、

「1組ずつ並び替える」

という方針は変わりません。

「実数を要素とする有限集合には最大値が存在する」ことは証明なしで用いてかまわないでしょう。

《別解》

数列 $\{y_i\}$ の項の並び替え方は有限であるから、集合

$$S = \left\{ \sum_{i=1}^n x_i z_i \right\}$$

(ただし $\{z_i\}$ は $\{y_i\}$ の項を並び替えたもの) には最大値が存在する。

この最大値を与える数列 $\{z_i\}$ について

$$z_1 > z_2 > \cdots > z_n$$

でないと仮定すると、

$$z_i < z_j \text{ かつ } 1 \leq i < j \leq n$$

となる番号 i, j が存在する。ここで

$$s = x_1 z_1 + \cdots + x_i z_i + \cdots + x_j z_j + \cdots + x_n z_n$$

$$s' = x_1 z_1 + \cdots + x_i z_j + \cdots + x_j z_i + \cdots + x_n z_n$$

おけば、

$$\begin{aligned} s' - s &= (x_i z_i + x_j z_j) - (x_i z_j + x_j z_i) \\ &= (x_i - x_j)(z_i - z_j) < 0 \end{aligned}$$

となり、 s の最大性に反する。よって、 $z_1 > z_2 > \cdots > z_n$ であり、 $z_i = y_i (i = 1, 2, \dots, n)$ が成り立つ。

以上から、

$$\sum_{i=1}^k x_i y_i =$$

が集合 S の最大値であり、 $\{y_i\}$ の任意の並び替え $\{z_i\}$ に対し

$$\sum_{i=1}^k x_i y_i \geq \sum_{i=1}^k x_i z_i$$

$$\Leftrightarrow \sum_{i=1}^n (x_i - y_i)^2 \leq \sum_{i=1}^n (x_i - z_i)^2$$

が成り立つ。

■

強者の戦略

第2問

- (1) $a_0 < b_0$, $a_1 < b_1$ を満たす正の実数 a_0 , b_0 , a_1 , b_1 について次の不等式が成り立つことを示せ.

$$\frac{b_1^2}{a_0^2+1} + \frac{a_1^2}{b_0^2+1} > \frac{a_1^2}{a_0^2+1} + \frac{b_1^2}{b_0^2+1}$$

- (2) n 個の自然数 x_1, x_2, \dots, x_n は互いに相異なり,

$$1 \leq x_k \leq n \quad (1 \leq k \leq n)$$

を満たしているとする. このとき, 次の不等式が成り立つことを示せ.

$$\sum_{k=1}^n \frac{x_k^2}{k^2+1} > n - \frac{8}{5}$$

【1999年度京大理系前期】

《考え方》

第1問と同じように考えます.

(2) の x_1, x_2, \dots, x_n は $1, 2, \dots, n$ の並び替えですね. もちろん分子の小さい順に並んだ方が総和は小さくなります. 上手く1組ずつ入れ替えて証明してください. (2) の後半は積分法を使って面積評価するとよいでしょう. 数Ⅲの積分法を未習の方は, 部分分数分解を利用した解法でもよいですが, ややテクニカルです.

《解答》

- (1) $a_0 < b_0$, $a_1 < b_1$ より

$$\begin{aligned} & \left(\frac{b_1^2}{a_0^2+1} + \frac{a_1^2}{b_0^2+1} \right) - \left(\frac{a_1^2}{a_0^2+1} + \frac{b_1^2}{b_0^2+1} \right) \\ &= \frac{b_1^2 - a_1^2}{a_0^2+1} - \frac{b_1^2 - a_1^2}{b_0^2+1} \\ &= \frac{(b_1^2 - a_1^2)(b_0^2 - a_0^2)}{(a_0^2+1)(b_0^2+1)} > 0 \end{aligned}$$

となるから,

$$\frac{b_1^2}{a_0^2+1} + \frac{a_1^2}{b_0^2+1} > \frac{a_1^2}{a_0^2+1} + \frac{b_1^2}{b_0^2+1}$$

が成り立つ.

- (2) x_1, x_2, \dots, x_n は $1, 2, \dots, n$ の並び替えである. まず,

$$\sum_{k=1}^n \frac{x_k^2}{k^2+1} \geq \sum_{k=1}^n \frac{k^2}{k^2+1} \quad (n \geq 1) \quad \dots \dots (**)$$

を数学的帰納法を用いて示す.

- (i) $n=1$ のとき

明らかに等号が成り立つ.

- (ii) $n=2$ のとき

$(x_1, x_2) = (1, 2)$ のとき, 明らかに等号が成り立つ.

$(x_1, x_2) = (2, 1)$ のとき, (1) から

$$\begin{aligned} \frac{x_1^2}{1^2+1} + \frac{x_2^2}{2^2+1} &= \frac{2^2}{1^2+1} + \frac{1^2}{2^2+1} \\ &> \frac{1^2}{1^2+1} + \frac{2^2}{2^2+1} \end{aligned}$$

となり, (**) が成り立つ.

- (iii) $n=m$ ($m \geq 2$) のとき

$1, 2, \dots, m$ を並べ替えた m 個の任意の自然数 x_1, x_2, \dots, x_m に対し

$$\begin{aligned} & \sum_{k=1}^m \frac{x_k^2}{k^2+1} \geq \sum_{k=1}^m \frac{k^2}{k^2+1} \\ \Leftrightarrow & \frac{x_1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{x_m^2}{m^2+1} \geq \frac{1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{m^2}{m^2+1} \end{aligned}$$

を仮定する.

$n=m+1$ のときを示す.

$$x_i = m+1 \quad (1 \leq i \leq m+1),$$

$$x_{m+1} = j \quad (1 \leq j \leq m+1)$$

とし,

$$\begin{aligned} s &= \frac{x_1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{(m+1)^2}{i^2+1} + \\ & \quad \dots + \frac{x_m^2}{m^2+1} + \frac{j^2}{(m+1)^2+1}, \\ s' &= \frac{x_1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{j^2}{i^2+1} + \\ & \quad \dots + \frac{x_m^2}{m^2+1} + \frac{(m+1)^2}{(m+1)^2+1} \end{aligned}$$

とおくと,

強者の戦略

$$\begin{aligned}
 s - s' &= \left(\frac{(m+1)^2}{i^2+1} + \frac{j^2}{(m+1)^2+1} \right) \\
 &\quad - \left(\frac{j^2}{i^2+1} + \frac{(m+1)^2}{(m+1)^2+1} \right) \\
 &= \frac{(m+1)^2 - j^2}{i^2+1} - \frac{(m+1)^2 - j^2}{(m+1)^2+1} \\
 &= \frac{\{(m+1)^2 - j^2\} \{(m+1)^2 - i^2\}}{(i^2+1)\{(m+1)^2+1\}} \geq 0
 \end{aligned}$$

$$\Leftrightarrow s \geq s'$$

となる。等号は $i=j=m+1$ のとき成立する。

よって、

$$\begin{aligned}
 &\frac{x_1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{x_m^2}{m^2+1} + \frac{x_{m+1}^2}{(m+1)^2+1} \\
 &\geq \frac{x_1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{x_m^2}{m^2+1} + \frac{(m+1)^2}{(m+1)^2+1} \\
 &\geq \frac{1^2}{1^2+1} + \dots + \frac{m^2}{m^2+1} + \frac{(m+1)^2}{(m+1)^2+1}
 \end{aligned}$$

が成立する。等号は $x_i=i$ ($i=1, 2, \dots, m+1$) のとき成立する。

以上より、すべての自然数 n に対して (**) が成立することが示された。

次に

$$\sum_{k=1}^n \frac{k^2}{k^2+1} > n - \frac{8}{5}$$

を示す。

$$\sum_{k=1}^n \frac{k^2}{k^2+1} = n - \sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2+1}$$

であるから、示すべきことは

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2+1} < \frac{8}{5}$$

である。

$$f(x) = \frac{1}{x^2+1} \quad (x \geq 0)$$

とおくと、 $k-1 \leq x \leq k$ ($k \geq 1$) において $f(x)$ は単調減少であるから

$$f(k-1) \geq f(x) \geq f(k)$$

が成り立つ。等号は常には成立しないから

$$\int_{k-1}^k f(k-1) dx > \int_{k-1}^k f(x) dx > \int_{k-1}^k f(k) dx$$

$$\Leftrightarrow f(k) < \int_{k-1}^k f(x) dx < f(k-1)$$

が成り立つ。左辺と中辺を $k=1, 2, \dots, n$ として加えると

$$\sum_{k=1}^n f(k) < \int_0^n f(x) dx = \int_0^n \frac{1}{x^2+1} dx$$

が成り立つ。

ここで、 $x = \tan \theta$ とし、 $\tan \theta_n = n$ ($0 < \theta_n < \frac{\pi}{2}$) と

すると、 $\frac{dx}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ 、 $\frac{x}{\theta} \Big|_0 \rightarrow \frac{n}{\theta_n}$ となるから

$$\begin{aligned}
 \int_0^n \frac{1}{x^2+1} dx &= \int_0^{\theta_n} \frac{1}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta \\
 &= \int_0^{\theta_n} d\theta \\
 &= \theta_n < \frac{\pi}{2} < \frac{8}{5}
 \end{aligned}$$

が成り立ち、

$$\sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2+1} = \sum_{k=1}^n f(k) < \frac{8}{5}$$

が成り立つ。

以上から

$$\sum_{k=1}^n \frac{x_k^2}{k^2+1} > n - \frac{8}{5}$$

が示された。

《別解》(部分分数分解の利用)

$$\begin{aligned}
 \sum_{k=1}^n \frac{1}{k^2+1} &= \frac{1}{2} + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k^2+1} \\
 &< \frac{1}{2} + \sum_{k=2}^n \frac{1}{k^2-k} \\
 &= \frac{1}{2} + \sum_{k=2}^n \left(\frac{1}{k-1} - \frac{1}{k} \right) \\
 &= \frac{1}{2} + 1 - \frac{1}{n} < \frac{8}{5}
 \end{aligned}$$

強者の戦略

ところで、次の2つの問題を見比べてみてください。

第1問

n を2以上の自然数とする。

$x_1, \dots, x_n, y_1, \dots, y_n$ は $x_1 > x_2 > \dots > x_n$,
 $y_1 > y_2 > \dots > y_n$ を満たす実数とする。 z_1, \dots, z_n
は y_1, \dots, y_n を任意に並べ替えたものとするとき、

$$\sum_{i=1}^n (x_i - y_i)^2 \leq \sum_{i=1}^n (x_i - z_i)^2$$

が成り立つことを示せ。また、等号が成り立つのはどのようなときか答えよ。

【2010年度東北大理系後期】

n を2以上の自然数とする。

$x_1 \geq x_2 \geq \dots \geq x_n$ および $y_1 \geq y_2 \geq \dots \geq y_n$ を満足する数列 x_1, x_2, \dots, x_n および y_1, y_2, \dots, y_n が与えられている。 y_1, y_2, \dots, y_n を並べ替えて得られるどのような数列 z_1, z_2, \dots, z_n に対しても

$$\sum_{j=1}^n (x_j - y_j)^2 \leq \sum_{j=1}^n (x_j - z_j)^2$$

が成り立つことを証明せよ。

【1987年度東大理科前期】

!? 偶然って、怖いですね。それではまた次回。

(笹谷)